

あなたも“楽酪隊”の隊員です

愛知県酪農農業協同組合 業務部

飯田 義雄さん



「虫歯予防には牛乳が良い」ということで、楽酪隊と歯科医師がコラボレーションしたイベント

「楽酪隊」とは、義務ではなく、参加者の善意で成り立っている集まり。経費を掛けないアイデア勝負で、消費者との密着型交流によって酪農や牛乳のPR活動を行っている

インターネットで「東海農政局楽酪隊」を検索してみてください。ホームページには、愛知県内で牛乳の消費拡大に関する諸活動を行っている酪農家や関係者を登場させています。多くの消費者に見ていただき、酪農や牛乳をもっと身近に感じていただくのが“楽酪隊”の私の役目です。従って、本人の自覚があろうがなかろうが、活動しているすべての人を楽酪隊員としてホームページに掲載しています（時には「私の顔写真を掲載するな」と叱られることもあります…。この場を借りて、ごめんなさい）。

県内での主な活動には、搾乳模擬体験機の「ミセスHカップさん」と、家畜車を利用した「搾乳体験号」の貸し出しがあります。酪農教育ファームでは一昨年の口蹄疫発生以降、ふれあい体験を自粛しています。そうした中、車で持ち運びができ、1人でも組み立てられる「ミセスHカップさん」が大活躍しています。牛乳の消費拡大の基本は、それぞれの酪農家の活動や地域イベントなどでの地道な努力です。そうした皆さんの活動を少しでも応援できれば…と思います。

全国酪農青年女性会議の「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーンでは、「子供たちに夢を与えたい」との発案がありました。そこで小学生以下の子供たちにお父さんへのメッセージを書いて送付してもらい、優秀者には「お父さんには内緒で自宅に乳製品を届ける」という企画を行いました。募集や選考方法、お父さ

らに、優秀者には「お父さんには内緒で自宅に乳製品を届ける」という企画を行いました。募集や選考方法、お父さ

んに内緒で家族と打ち合わせする段取りなど企画の準備は大変ですが、だからこそやり遂げたときの仲間の結束力は強いです。

子供たちからのメッセージの中には、次のような手紙もありました。ある役員が選考中に突然泣き出しました。その役員が読んでいた手紙は「お父さん、今までありがとう。天国へ行って私を見守ってください」との文面でした。その子供の母親から「父親が末期がんで、あと数カ月の命と宣告されている」と聞きました。その時は自宅ではなく、学校で出前授業をして表彰しました。

こうした熱い思いで活動していると、新聞社や乳業メーカーなどの協力者がどんどん現れます。さらに、愛知県内の酪農家の牛乳消費拡大の活躍を知ったテレビやミニコミ誌などの取材依頼が入ります。われわれにはコマーシャルを入れるだけの資金はありませんので、こうしてメディアに取り上げられることで、多くの消費者に酪農や牛乳をPRすることができます。こうした部分がどれだけあるかが、草の根としての牛乳消費拡大運動の鍵となります。

出会った人と楽しく前向きに取り組んでいけば、おのずと道は開ける—というのが私の持論です。お金を掛けて単発で大きな花火を上げるよりも、地域に根差した継続的な活動をしていこうと思います。

そんな訳で、私は自分の周りの人たちをどんどん楽酪隊員にしていくつもりです。この記事を読んで「もっとこうすればいいよ」「こんなのはどうですか」など提案をいただければ、あなたももう立派な“楽酪隊員”なのです。



楽酪隊が発行する「楽酪隊通信」。牛舎の壁面に取り付けたゴーヤカーテンの効果などを紹介